

救急基金だより

みなさまの善意が「救急基金」を支えています

- 救急基金の歩み
- 寄付金募集事例紹介
 - ・佐渡市消防本部
 - ・南但消防本部
- 平成24年度救急基金会計の決算
- 救急基金への寄付について



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

一般財団法人 救急振興財団

(平成25年4月に一般財団法人へ移行しました。)

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された救急振興財団は、設立当初より16,521名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の市民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄付金を基金として積立て、その運用益を用いて応急手当講習会で使用す

る資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

<平成5年度～平成8年度>

市民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成するための講習会の開催

<平成9年度>

寄付金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

<平成10年度～平成25年度>

消防機関が市民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈

寄付金募集事例紹介

佐渡市消防本部

佐渡市は、新潟県のほぼ中央部の日本海に浮かぶ離島で、面積855.27m²、人口約6万人の日本では沖縄本島に次ぐ2番目に大きな島です。江戸時代は金山で栄え、北に大佐渡山地、南に小佐渡丘陵を擁し、島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定され、国際保護鳥「とき」の試験放鳥を実施するなど、豊かで美しい自然環境に恵まれ、釣りやトレッキングなどの観光地としても有名です。そんな佐渡市の安全を見守っているのが、佐渡市消防本部です。

佐渡市消防本部では、命の大切さや人に対する優しさ、助け合いの精神などを子供のうちから育む事が大切であると考え、毎年教育委員会や市内全小中学校長に依頼をして、小学校高学年に「命の授業」を、中学生に「救急講習」を実施し、受講者には専用の修了証を発行しています。これらの講習は、

学校授業の一環として一限（50分）で行い、子供たちにも楽しく学んでもらえるようDVDを使うなど工夫をしています。

また、普通救命講習を管内4つの消防署において持ち回りで毎月実施し、事業所などからの要望に

より少人数で講習を実施している外、事業所ごとに設置している多種のAEDに対応するAEDトレーナーを用意したり、心肺蘇生訓練人形や異物除去訓練人形を用意して実技主体の講習を実施しています。

救命講習会に参加したある方について、次のようなエピソードがあったそうです。その方はご自宅でご家族が倒れられた際、救命講習を思い出してバイスタンダーCPRを実施しました。残念ながらそのご家族を助けることはできませんでしたが、「家族として最後にできるだけのことをしてあげられてよかった。講習を受けて良かった。ありがとう。」という言葉で救急隊員に掛けてくださったそうです。

“応急手当講習は、倒れている方の命を救うだけではなく、助かってほしいと願う家族の方々の心をも救うもの”と教えてくれるお話しだと思います。

佐渡市消防本部の皆様には、平成16年3月に佐渡島内4消防本部が合併する以前の旧両津市消防本部の頃より、救急基金に熱心に取り組んでいただいております。

このような佐渡市消防本部の皆様による応急手当の普及啓発と救急基金への積極的な取り組みに感謝しつつ、今後ますますのご活躍とご発展をお祈りいたします。

1分1秒を争う、いのちのために
活かします、あなたの思いやり

救急基金



皆様から寄せられた寄付金は、
応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

一般財団法人 救急振興財団

救急基金の歩み
一般財団法人 救急振興財団 救急基金部
〒950-8502 佐渡市佐和田2-1-1 佐渡市消防本部内 TEL: 0252-673-1031 <http://www.kyuu.or.jp>



南但消防本部

南但消防本部は、兵庫県の北部に位置し、養父市及び朝来市の2市により構成され、平成25年4月1日に発足しました。その管内面積は825.76km²、人口は約6万人です。

養父市は、雄大で美しい自然に囲まれており、市の西部には県下最高峰の氷ノ山や鉢伏山、八チ高原、若杉高原が、北部には妙見山がそびえています。

また、朝来市には、壮大な眺めから「天空の城」、「日本のマチュピチュ」と称され日本100名城の一つである竹田城跡のほか、円墳としては近畿地方最大級の規模を持つ茶すり山古墳、生野銀山跡など古代遺産や近代化遺産が数多く存在し、国内外から多くの観光客が訪れています。

南但消防本部の救急の現状としては、昨年に北近畿豊岡自動車道が八鹿まで開通したことに伴い、管内が但馬・山陰地方と京阪神大都市圏とを結ぶ交通の要衝を占めることとなった為、1年を通じて長距離トラックや観光地へ向かう車による交通事故も多く、搬送人員のうち管外に住所を有する者の割合が約20%を占めています。また、山間部であることから、ドクターヘリ・ドクターカーの要請件数は、年間900件を超えています。

こうした実情を踏まえて南但消防本部では、助かるはずの命を救うためには速やかな

119番通報と市民による救命処置が重要であることから、応急手当の管内総人口20%の普及を目標に市民に対する普通救命講習を積極的に実施しています。

その実施規模は年間受講者数1,000人を目指しており、平成24年には、普通救命講習を57回、その他の救命講習を66回実施し、2,600名を超える市民が参加したとのことでした。

また、より効果的な講習を実施する為にさまざまな工夫を行っています。

1時間程度の救急講習では独自に作成したわかりやすい資料を用いたり、普通救命講習では応急手当普及員である女性消防団員にも指導員として参加してもらったり、さらに初めての試みとして、中学生を対象に救命入門コースを実施するなど、精力的に取り組んでいます。

このように、南但消防本部と地域の皆様には、応急手当の普及推進に多大なご協力をいただいております。心より感謝申し上げます。今回寄贈させて頂いた資器材等を、さらなる応急手当の普及にご活用いただければ幸いです。



みなさまのご寄付で購入しているもの



平成10年度より、皆様から寄せられた寄付金を積み立てた救急基金の運用益で、

- ・心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ・応急手当講習用DVD
- ・応急手当講習テキスト
- ・AEDトレーナー

を購入しております。

これらは、各消防本部に寄贈され、市民の方を対象とした応急手当の講習会で活用されています。



*過去の救急基金だより（NO. 1～NO. 11）につきましては、救急振興財団のホームページ（<http://www.fasd.or.jp>）の 救急基金 の項目の中に掲載しています。

■平成24年度救急基金会計の決算（単位：千円）

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 異 |
|--------------------|---------|-----------|---------|
| I 事業活動収支の部 | | | |
| 1 事業活動収入 | | | |
| ① 特定資産運用収入 | 1,899 | 1,915 | △ 16 |
| ② 寄付金収入 | 2,000 | 1,055 | 945 |
| 事業活動収入計 | 3,899 | 2,970 | 929 |
| 2 事業活動支出 | | | |
| ① 事業費支出 | | | |
| 救急基金助成事業費支出 | 1,899 | 1,071 | 828 |
| 事業活動支出計 | 1,899 | 1,071 | 828 |
| 事業活動収支差額 | 2,000 | 1,899 | 101 |
| II 投資活動収支の部 | | | |
| 1 投資活動収入 | | | |
| 投資活動収入計 | 0 | 0 | 0 |
| 2 投資活動支出 | | | |
| ① 特定資産取得支出 | 2,000 | 1,055 | 945 |
| 投資活動支出計 | 2,000 | 1,055 | 945 |
| 投資活動収支差額 | △ 2,000 | △ 1,055 | △ 945 |
| 当期収支差額 | 0 | 844 | △ 844 |
| 前期繰越収支差額 | 0 | 3,780 | △ 3,780 |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 4,624 | △ 4,624 |
| ※平成24年度末救急基金残高 | | 182,274千円 | |

救急基金にご協力くださいませ
ありがとうございました

平成24年度は、病院や消防本部、個人の方から合計43件1,055千円のご寄付をいただきました。

また、救急基金にご協力いただきました次の消防本部へ応急手当訓練用人形、テキスト等を寄贈いたしました。

- 新潟県 佐渡市消防本部
- 兵庫県 朝来市消防本部(現 南但消防本部)
- 長崎県 長崎市消防局



救急基金へのお申し込み方法

救急基金箱、又は手数料が無料となる専用の郵便振替用紙をお送りいたしますので、下記にお問い合わせください。

一般財団法人救急振興財団
救急基金担当 TEL 042-675-9931



救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記にお願いいたします。

救急基金だよりNo.12 [編集・発行] 一般財団法人救急振興財団事務局総務課
〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6 ☎ 042-675-9931
FAX 042-675-9050